

「にせの星」で 本物くつきり

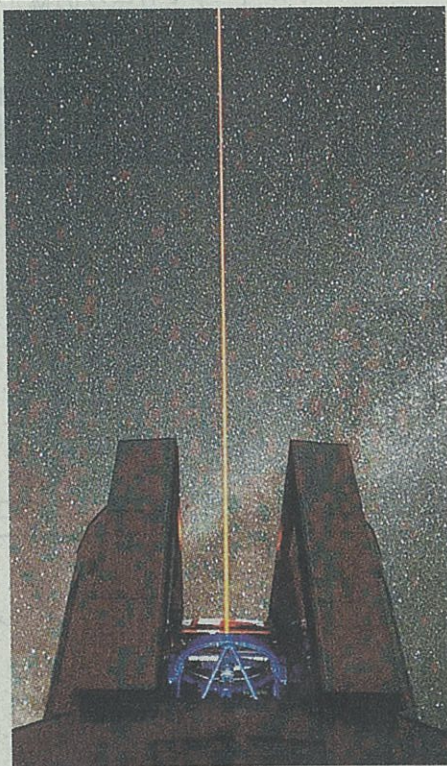
国立天文台

レーザー光を空に照射して作った「にせの星」を頼りに暗い天体もくつきり

きりとりえる研究を進めている国立天文台などは21日、米ハワイのすばる望遠鏡で画像の精度を約10倍向上させるのに成功したと発表した。星の姿をばやけさせる大気のを

揺らぎの影響を取り除くことで、精度を高めた。

同天文台によると、すばる望遠鏡から空へレーザー光を当て、約90°上空にあるナトリウム原子



天の川が広がる夜空へ向けて、レーザービームを照射するすばる望遠鏡(30秒露光) 国立天文台提供

を発光させて「ガイド星」を作り、大気の揺らぎを計測する。時々刻々と変化する揺らぎを即座に天体の画像から差し引いて、鮮明な像を得る。「レーザーガイド補償

光学」と呼ばれる方法だ。

これまでは見たい天体の近くの明るい星をガイド星にしていた。研究チームは「近くにガイド星になる星がなかった遠い銀河や超新星なども観測できる」といい、今後、新しい発見が期待できそう

ガlico りんごヨーグルト
りんごジャンピング
キャンペーン 実施中
2人用なわとび当たる。
詳しくは、
glico-jump.jp